社協シンボルマーク

ふれあいネットワーク

曽於市社会福祉協議会情報紙

第77号

令和２年11月13日

手と手

やさしさ100パーセント

第16回 曽於市社会福祉大会福祉ポスター 中学生の部 最優秀賞

画題：「暮らしに幸せを届けたい」

曽於市立末吉中学校　２年　大休寺（だいきゅうじ）　涼那（すずな）さん

小さな場面でも相手に不自由なく暮らしてほしいと思い、この絵を描きました。

理念　人と人とのつながりを大切に地域と共に歩む

発行／社会福祉法人 曽於市社会福祉協議会
曽於市財部町南俣504番地１（財部保健福祉センター内）
TEL：0986-72-0460･0480 FAX：0986-72-0425 E-mail：sohokubu-shakyo@dream.ocn.ne.jp
情報紙「手と手」は、本会のホームページでもご覧になれます。 URL：http://soo-shakyo.or.jp/

この情報紙は、地域住民の皆様からの社会福祉協議会会費を財源に発行しています。

第16回曽於市社会福祉大会

福祉作文 2020

最優秀賞作品紹介

テーマ「おもいやり」

誰もが幸福感に満ちた地域をつくるには、共に支え合い、助け合っていくことが大切です。曽於市社協では、そのような福祉のまちづくりを進めるに当たって、意識の高揚と啓発を目的に作品を募集しました。

最優秀賞福祉作文【小学生の部】

曽於市立財部小学校　4年

福岡（ふくおか）　青志（あおし）さん

「ぎゅっとだきしめることで」

ぼくの家のとなりに住んでいる「ちいばあ」は、ぼくのことを見ると、いつも力いっぱい、ぎゅっとだきしめてきます。ぼくは、うれしいけど、ちょっとはずかしいし、「く、苦しい」と思ってしまいます。だけど、ちいばあは、そんなことおかまいなしに、ぼくのことをぎゅっとだきしめます。

ちいばあは、耳がきこえません。小さいころに、高熱を出して、耳がきこえなくなったそうです。だから、ちいばあと話すときは、ゆっくりと、口を大きく開けてしゃべったり、手を動かしたり、体で表したり、紙に書いたりしています。ちいばあも、「手話」とよばれる会話を使って話をしてきます。

ぼくのお母さんが、手話は「心のことば」だと教えてくれました。ぼくも、小さい時から、ちいばあと話す時は、せなかをトントンしてから話すように言われていたし、手話という会話が、自ぜんで当たり前のコミュニケーションだと、何もふ思ぎに感じることはありませんでした。だから、ぼくは、ちいばあが耳がきこえないということを、まったく意しきしたことがありませんでした。

でも、ぎゃくに考えると、耳がきこえないということが、どんな世界なのかも考えたりしたことがなかったということです。ちいばあといっしょに、テレビを見ていても、その声はきこえていないし、音楽をきいていてもきこえていない、何もとどいていないのです。

ぼくは、両手で自分の耳をふさぎました。

「シーン。」

今まできこえていたまわりの音が、何もきこえなくなりました。感じるのは、ザーッというへんな音みたいなのと、心ぞうが、ドットッと打っているものだけです。

ぼくは、急に、こわくなりました。何もきこえないということが、こんなにもさびしい世界になるなんて、思いもしませんでした。耳のきこえない人たちにとって、手話という会話がとても大切なことばだということにも気づきました。

ぼくは、思い出しました。手話は「心のことば」だということも…。

きっと、ちいばあは、ぼくのことが大好きでたまらなくて、いつもぎゅっとしてくるのだと思いました。だから、ぼくも、ぼくの心のことば「ちいばあ大好き」を、力いっぱい、ぎゅっとだきしめることで、ちいばあに伝えようと思います。

そして、「手話」を勉強してみようと思います。相手に伝える・伝わることのむずかしさは、耳がきこえていても、きこえていなくてもかわりません。

「心のことば」によりそえるように、心のそこからわきあがってくる気持ちを、心をこめて表していきたいです。

最優秀賞福祉作文【中学生の部】

曽於市立末吉中学校　3年
久永（ひさなが）　李々（りり）さん

「家族の形って」

「お父さん、お母さん。」なにげない日常の中で発せられる言葉。町中でも学校でもよく耳にする。この言葉をきくと少し浮かない気持ちになる。なぜか。私には父がいないからだ。顔も知らない。父について何も分からない。父がいるってどんな感じなんだろう。よく思う。逆に父がいる家庭からすると父がいないってどんな感じなんだろう。そう思うはずだ。私たちの住む社会では、母子家庭、父子家庭に対してどのようなイメージを持っているのだろうか。浮かんでくるほとんどがマイナスのイメージになっているのではないだろうか。

幼い頃、友達と家族の話をしているとき、父についての話になったことがある。私は何も考えずに「私、お父さんいない。」と話した。すると、友達は「え。お父さんいない人もいるんだ。」とボソッと言った。それに続けて「絶対つまんないし楽しくないでしょ。」と言い放ったのだ。とても悔しかった。心にポッカリと穴が開いた気分だった。そのような偏見に対して私の心の隅に怒りの炎が湧き上がったのを今でもはっきりと覚えている。それから時はたち、私は小学校高学年になった。友達との何げない日常の会話の中でまた、父の話になった。また、私は「私、お父さんいない。」と言った。すると、空気が重くなり、皆少しの間無言になった。悲しかった。

今度は心の中に怒りの炎ではなく、悲しみの冷たい雨が降り注がれたのを感じた。私たちの住む社会には、私のようにこのような思いをする人が他にもいるのではないだろうか。皆がこのような反応になったのには、社会に偏見があるからだと私は思う。偏見という字は偏よる見方と書く。

私はこの偏見をもったことがないとはっきりと言うことはできない。むしろ、誰もが偏見をもつものだと私は思っている。私自身も実際に見た目だけでその人のイメージを固めてしまい良いイメージが持てなかったことがある。話してみると、自分が思っていたイメージと真逆の人柄だったということがあった。これこそ、勝手な偏見でイメージを固めてしまい良いイメージがもてなかったことになる。

実際、母子家庭で困る場面は沢山あるが、見つけられていないだけで良いところも沢山ある。たとえば、体育大会は皆が楽しみにしている行事の一つだろう。だが私は、半分恥ずかしい、半分楽しみという気持ちになる。お昼休みのとき、皆は家族が集まって大人数でにぎやかになるだろう。私のところは、静かにひっそりと食べている。なぜか分からないが恥ずかしい気持ちになる。母は私の気持ちを知りながらも、それに負けないくらいに朝から手をぬかずに一生懸命に弁当を作ってくれるなど女手一つで私をここまで育ててくれている。そして、毎日笑顔でいてくれる。それだけで私は十分だ。私は幸せ者だなと思う。

家族の形には、いろいろな形がある。勝手な偏見によるイメージだけで決めつけないでほしい。父がいなくても私の家族は工夫しながら助け合い、楽しく毎日を過ごしている。私の家族は、愛を大切にしてお互いの存在を認め合う家族だ。私はこの家族の形に誇りを持っている。この家庭に生まれてよかったと、今は心から思える。

偏見のない生きやすい社会になってほしい。それが今の私の願いである。

第16回曽於市社会福祉大会における参加者制限のお知らせ

本年度の曽於市社会福祉大会につきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、参加者の身体的距離の確保、マスク着用や手指消毒など、感染予防対策を徹底した上で、大会規模を大幅に縮小し、表彰式典のみを実施することとしました。

例年、受賞者の方をはじめ、多くの関係者の皆さまにご参加いただいている大会ですが、参加者の健康と安全を考慮し、今回の参加者を受賞者及びその関係者等、ご案内した方々に限定して開催いたします。つきましては、一般の方のご参加をご遠慮いただくことに対して、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

問い合わせ先
曽於市社会福祉協議会　総務課
☎0986-72-0460

福祉教育出前講座を開催

福祉マインド（福祉の心、福祉の精神）やボランティア観を学ぶ

7月1日、岩南小学校から依頼を受けて福祉教育出前講座を開催しました。

子どもたちが障がい者スポーツやパラリンピックについて知ることで、障がいのある方への理解を深め、思いやりをもった行動ができるようになることを目標に、障害福祉サービス事業所 大隅シオン舎 立山 泰子氏による講話やボッチャ（パラリンピック競技）、アキュラシー（障がい者スポーツ大会種目）体験を実施しました。

講話をしてくださった立山さん

参加者にインタビュー

丸鶴（まるつる） りおさん（岩南小学校5年生）

―パラリンピックの種目になっているボッチャを体験してみてどうでしたか？

立った状態や、車いすに乗った状態からボールを投げてみました。どちらも難しかったけど、チームで協力しながらすることが楽しかったです。

ボッチャの体験やパラスポーツの歴史についての説明を聞くことで、車いすでスポーツをする人たちが楽しめるように、いろいろな工夫があることが分かりました。

―出前講座をとおして感じたことは？

講座をとおして、学んだことを伝えることは私にもできることだと感じたので、これからもいろいろなことを学びながら、もっとみんなに教えて広めたいと感じました。

ボッチャをする丸鶴さん（中央）

地域で守る命の講座
（赤い羽根共同募金助成事業）
サマーボランティア体験活動2020

近年、日本各地で豪雨等の災害が多く発生していることから、この講座を毎年夏休み期間中に実施しています。今年で3年目となり、今年度は8月3日に岩南小学校で行いました。この講座は、様々な体験を通じて、児童・生徒のさらなる成長を目指し、住民同士の日常的なつながりをつくることを目的に開催しています。

学校関係者、保護者、校区社協、公民館、在宅福祉アドバイザー、日赤鹿児島支部、赤十字奉仕団員など多くの地域住民の方々の参加協力をいただきました。ありがとうございました。

災害時等で活用する段ボールベッドの組み立て

学校周辺の危険個所の把握

非常炊き出し体験の様子

地域で守る命の講座参加者のこえ

堂園（どうぞの） 徠実（くるみ）さん（岩南小学校４年生）

日本赤十字社の方から、大雨やかみなりから身を守る方法を教えてもらいました。ひなん所で使うだんボールベッドの組み立てもさせてもらいました。だんボールなのにじょうぶなベッドができることを初めて知って、びっくりしました。

その後、地いきの方々や先生といっしょに学校の近くにあぶない場所がないか見て回りました。わたしは古い空き家があることに気がつきました。古い空き家は大雨や風でくずれることもあるそうです。近くを通るときは気をつけようと思いました。

今、社会科で自然災害にそなえるまちづくりの勉強をしています。自分の命をしっかり守れるように、教えてもらったことをおぼえておきたいです。

堂園（どうぞの） 美樹（みき）さん（保護者）

今回、子どもたちと一緒にサマーボランティア体験活動に参加させていただきました。今回の体験以降、今まで以上に、台風や災害への備えをするようになりました。また、子どもたちと何を準備したらいいのか、どこへ避難したらいいのかなど、しっかり話し合うこともできるようになりました。子どもたちも災害に対し、さらに関心をもつようになったと思います。このような機会が、地域の災害に対する安全を築くことにつながるのではないかと思います。今後もボランティア活動を通して、子どもたちや地域の方々と一緒に安全な地域づくりができたらと感じました。

堂園さん親子（右）

校区・地区公民館長及び校区社協会長合同連絡会を開催

9月8日、財部保健福祉センターにて開催し、41名の参加がありました。

今回は社協事業の紹介や報告のほか、一般社団法人パーソナルサービス支援機構代表理事の大倉　一真　氏より「生きづらさを抱えて困っている人をどのように見つけてどのようにつないでいくか」と題して講演をいただきました。

制度の狭間で苦しみ、つながりを失っている方に対して、支援のネットワークを構築していくために、個人の問題を「わたしたちの問題」と捉える視点が必要であること、困っている方の心に寄り添うことの大切さについてお話しいただきました。

また、ひきこもりの方が地域と関わりを持ちづらい原因として、「人と関わり、実際に行動した」という経験の不足から社会でのコミュニケーションがうまくいかないことがあげられる。だからこそ、地域とつながりをもち、その中で様々な体験をしてもらうことが重要だと教えていただきました。生きづらさを抱えた方をどのように支え、助け合っていくか、地域での見守りや支え合いの大切さについて、改めて考える機会となりました。

サロンで地域いきいき

ふれあい・いきいきサロン 棚木サロンなごぶい(末吉地域)

今年の7月に開設したばかりのサロンです。校区内で新規開設するサロンの話を聞いて「サロン、いいなぁ。棚木も公民館があるし…」と呟いたところ、社協より「棚木も開設しませんか?」と声をかけられたことがきっかけでした。ですが、私は横浜から棚木に移住して３年目。勝手に決めて参加してくれる人がいるだろうか…と悩みました。幸いなことに棚木自治会は13所帯の小さな集落。サロンの話をしてみたところ、全世帯賛成で開設が決まりました。

毎月第２土曜の午後を基本に茶話会に軽い体操やゲーム、健康についての話をしたり、月１～２回の集まりを楽しんでいます。最近では社協から借りてくる“ボッチャ”（パラリンピック正式種目）で盛り上がっています。

性別、年齢に関係なく、みんなが楽しめて最後まで勝敗がわからないスリリングな駆け引き。毎回笑い声が絶えません。まだまだ始まったばかりの「なごぶい」ですが、これからも「皆で元気に長生き」を合言葉に、「なごぶい=久しぶり」に地域の顔見知りが集まり、ほっとする場所として楽しく続けていけたらと思っています。

代表　小幡（おばた）　留美子（るみこ）

棚木サロンなごぶいの皆さん

サロン・体操教室・ミニデイ合同連絡会を開催

感染症対策として参加人数を少なくするために分散して計８ヵ所で開催しました。市内各団体から計98名の参加がありました。

今回は、「認知症サポーター養成講座」とコロナ禍における取り組みについて情報交換などを行いました。

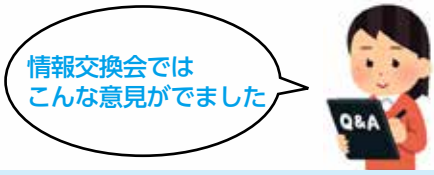
認知症サポーター養成講座

「認知症サポーター」とは、認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で寄り添い、支援する人のことです。

曽於市でも大きな課題である認知症について理解を深め、サポートの輪を広げられるよう、参加者の皆さんに「認知症サポーター」になっていただきました。

情報交換会

感染症の影響で開催を見合わせているところ、対策を行いながら開催しているところなど、それぞれ異なる状況や取組を今後の活動に向けて出し合い互いに参考にしていただきました。



● コロナ禍における地域活動で工夫していること

・食事を弁当に変えたり、小鉢に分けたりしています。
・検温・除菌・手洗い・換気などを徹底しています。
・人数が多いので曜日を分けて密にならないようにして開催しています。
・直接の接触を避けるような手袋などの道具を活用しています。

● 地域活動での悩み

・男性の参加が少なく、支え手が不足している問題などがあります。
・新型コロナウイルスへの感染が気になり、接触したり、外出を避けることが増え、みんなのやりたい活動がなかなかできません。
・もしも感染者が出たらどうしようという不安があります。

参加者にインタビュー

高山いきいきサロン(財部地域)　田中（たなか） ヒナ子さん

―認知症サポーター養成講座を受けてみてどうでしたか？

認知症がこれまでイメージしていたより、いろんな症状などかあるということがわかりました。

自分の身近なところでも思い当ることも多くて、自分の生活や地域の中で認知症を「自分の事」として見られるようになったと思います。

サロンの皆にも聞いてもらいたいと思いました。

―他の活動者との情報交換はどうでしたか？

他の団体の人達とも色々な話ができて良かったです。

コロナ禍でなかなか再開できていないとの話も聞きましたが、自分たちは参加者の意見で6月から再開し、換気や消毒、食事への注意などしながら活動できています。

他のサロンでは男性の参加が少ないという悩みもありましたが、自分たちの所では男性がとても積極的に取り組んでくれるなど、サロンのいいところに気づかせてもらえました。

SOOGoodFM に出演しました

まちづくり曽於エフエム

8月6日「サマーボランティア体験活動と福祉教育出前講座」をテーマにラジオ出演しました。岩南小学校の皆さんに体験を通しての感想や現在学校で取り組むボランティア活動についてお話しいただきました。※福祉体験の内容については5ページを参照

平原（ひらはら） 美保（みほ）先生（岩南小学校教諭）

ー福祉体験はどうでしたか？

今年度、「サマーボランティア体験活動」や「福祉教育出前講座」など、良い学びの場を提供していただきました。岩南小学校の子どもたちと共に、教えていただいたことや、体験して感じたことをこれからの活動にいかしていきたいです。

ー福祉教育への想い

様々な福祉体験をとおして「福祉とは、何か？」ということを考えてきました。その中で私が心に残った言葉は、「**福祉とは、ふだんの　くらしの　しあわせ**」だということです。私たちは、たくさんの人たちと一緒に生活を送っています。一人では生きていけません。福祉教育を通して、「みんなが幸せに暮らせるように、自分に何かできることはないか？」と、子どもたちが考えるきっかけになればと思っています。

ーラジオ出演はどうでしたか？

ラジオで話すということは、今回が初めてでした。もちろん、収録スタジオに入るのも初めてです。子どもたちと同様に、私自身もとても緊張していました。

始まってからは、緊張していたのが嘘のように、楽しく話をすることができました。あっという間の１時間でした。最初は緊張していた子どもたちが、堂々と自分の考えを話す様子を見て、頼もしく感じました。子どもたちのおかげで、私も貴重な経験をさせてもらいました。

高野（たかの） 梨叶愛（りのあ）さん（岩南小学校6年生）

ーこれから学校・地域でどんなことに取り組みたいですか？

これからは福祉についてたくさんのことを学んで、もしも、人が困っていたらサポートすることができるようにしたいです。

ーラジオ出演はどうでしたか？

緊張していましたが、最後は楽しくしゃべることができました。

須田（すだ） 玲央奈（りおな）さん（岩南小学校6年生）

ーこれから学校・地域でどんなことに取り組みたいですか？

もし災害が起こったら、かみなりが鳴っているときには木の下に行かないことやひなん所でのすごし方など、習ったことをしっかりしたいと思いました。

ーラジオ出演はどうでしたか？

緊張したけど、しっかりできたので良かったです。

曽於市立岩南小学校

- **創立144周年**
- **児童数　21名（令和２年度）**

「花とカヌーとふれあいの学校」のキャッチフレーズのもと、小規模校の良さを生かし、一人ひとりの良さを認め合い、助け合う活動を重視しています。また、グラウンドゴルフ交流会、合同合唱、特別養護老人ホーム訪問など、さまざまな場面で地域の高齢者の方々との交流を行っています。

10月1日「赤い羽根共同募金運動」をテーマにラジオ出演しました。共同募金は、集められた地域の福祉のために使われる募金です。今回は共同募金の助成を受けて活動されている団体「ミニデイ　ななつ星」の森岡さんに活動の内容などについてお話しいただきました。

森岡（もりおか） 千鳥（ちどり）さん（ミニデイ ななつ星 代表）

－ミニデイではどのようなことをされているのですか？

定期的に集って、交流をしながら体操などを通じて心身機能の維持・向上を図っています。介護予防に努めて、できるだけ在宅生活を継続できるようにと活動しています。

具体的には、週１回、体操や脳活性化リハ、ゲームや製作活動、音楽教室、季節に応じた行事活動など行っています。

スタッフがいろいろ工夫を重ねながらも、専門職や個人、団体のボランティアの支援もいただきながら内容の深いプログラムが実施できていると感じています。

ミニデイ ななつ星活動の様子

－活動をされてきてどのようなことを感じていますか？

みんなの生活の一部になっていて、楽しみにしていただけているようです。活動を重ねるごとにみんなの絆が深まっていて、ここでの関係が、日常生活上の地域の支え合いにつながっていると思います。

一人ひとりの健康意識も高まり在宅生活の意欲も高まっていることも感じます。また、みんなの居場所となっていることで、閉じこもりの防止や地域参加の促進にもつながっています。

また、利用者やスタッフの得意なことや知識、経験などを生かした活動も積極的に取り入れていることも、それぞれが役割を持つことができ、自尊心の向上にもなっていると感じています。

－今後の活動への思いは？

まず、みなさんの大切な募金のおかげでミニデイの活動が継続できていることに深く感謝しています。

地域のみなさんの大切な場所として活動を続けていきたいと思いますが、今後は買い物支援もそうですが、みんなの生活課題をミニデイ活動を通じてその解決に取り組んでいけるようになれたらと思っています。

SOOGoodFMで社協の情報を発信させていただいています。

- 番組名：しるしるそお市
- 社協出演枠：偶数月第1木曜日
  11時00分～12時00分
- 次回予告：社会福祉大会について

10月から赤い羽根共同募金運動がはじまっています！

■共同募金ってなに？

共同募金は、赤い羽根をシンボルに、「赤い羽根共同募金」として、毎年10月１日から翌年３月31日の期間、全国で募金運動が行われています。

■共同募金は何に使われているの？

共同募金は、制度や行政の手が届かない「困ったこと」のために使われます。曽於市で募金をすると、曽於市の「困ったこと」に使われます。

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、さまざまな地域福祉の課題解決に取り組む民間団体に助成しています。

皆様のご協力をどうぞよろしくお願いします。

権利擁護の研修会を開催

10月20日、支援者の質の向上を目的に、福祉サービス利用支援事業（日常生活自立支援事業）の利用支援員研修会と第5回権利擁護センター研修会を開催しました。

利用支援員研修会では、利用支援員として活動されている方とこれから活動される方を対象に、また、権利擁護センターの研修会では、関係者・職員を対象に、天羽　浩一　先生（社会福祉士事務所　こすもす）をお招きして、「権利擁護」をテーマに講話をいただきました。

講話をとおして、「権利擁護とは、人間の尊厳と人権を尊重すること。つまり、個人が大切にしていることは何か、どのように過ごしていきたいのか、楽しみにしていることは何かといったその人の思いを把握し、その思いの実現を目指して取り組むことである」ことを再確認させていただきました。

支援員の方々、関係者・地域の皆さまのご協力をいただきながら、一人ひとりと向き合い、安心して暮らせるような支援ができるよう努めていきます。

■福祉サービス利用支援事業（日常生活自立支援事業）

認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者などのうち判断能力が不十分な方が地域において自立した生活が送れるよう、利用者との契約に基づき、福祉サービスの利用援助等を行うものです。

■利用支援員

契約内容・支援計画にそって、定期的に訪問し福祉サービスの利用手続きや預金の出し入れをサポートしています。

正規職員・常勤臨時職員の募集について

一緒に曽於市社会福祉協議会で働いてみませんか？
社会福祉法人曽於市社会福祉協議会では、以下の職務に従事する職員を公募します。

	正規職員	常勤臨時職員
公募する職	①看護職員 ②介護支援専門員 ③地域福祉コーディネーター	地域包括支援センター 介護支援専門員
受験資格	①普通自動車運転免許及び看護師または准看護師の資格を有する方 ②普通自動車運転免許及び介護支援専門員の資格を有する方 ③普通自動車運転免許及び社会福祉士または社会福祉主事の資格を有する方	普通自動車運転免許及び介護支援専門員の資格を有する方
採用定数	①②③若干名	若干名
受験申込み受付期間	令和２年12月１日(火)～令和３年１月８日(金) 午前８時30分～午後５時 ただし、土曜日、日曜日、祝日は除きます。	随時
採用試験日	令和３年１月24日(日)	随時

詳しいことのお問い合わせは下記までご連絡ください。
社会福祉法人曽於市社会福祉協議会　総務課　担当 藤田　　電話番号　0986-72-0460

実習生

久保（くぼ） 早紀（さき） さん
（宮崎福祉医療カレッジ）

本会で社会福祉士相談援助実習を行った久保さんからメッセージをいただきました。

曽於市社会福祉協議会で23日間実習させていただき、ありがとうございました。たくさんの事業に参加させていただき、地域福祉における人と人とのつながりの大切さ、信頼関係を結ぶ大切さ、地域に住む人々の住みやすい居場所づくりに関わるすべての人々の姿など、たくさんのことを学ばせていただきました。社会福祉士として地域を支援する一員となり、貢献できるようにこれからも精進していきたいと思います。

曽於市社協からのおしらせ

心配ごと相談所開設について

日常生活のことで、お困りのことがありませんか？心配ごと相談員や社会福祉協議会職員が対応いたします。

会場	開催日時	11月26日 9:30～12:00	12月10日 9:30～12:00	12月24日 9:30～12:00	1月14日 9:30～12:00	1月28日 9:30～12:00	2月25日 9:30～12:00
財部保健福祉センター	相談員	橋本	棚木原	柳田	鎌原	橋本	棚木原
そお生きいき健康センター	相談員	山内	竹石	原田	吉田	羽嶋	山内
大隅弥五郎伝説の里	相談員	佐伯	鍋山	大村	津曲	佐伯	鍋山

※２月11日は祝日のためお休みです。

無料法律相談開設について

ひまわりの会による無料法律相談

○相談料：無料(相談者からはいただいておりません)
※1回につき相談時間は30分以内
○申込・受付方法：事前に予約が必要です。
○お問合せ先：
ひまわりの会　事務局　代表弁護士　山口　政幸
鹿児島市山下町12番17号2階
TEL：099-227-0041(受付：平日9時～17時)

○相談日時及び会場：

会場	相談日時
財部保健福祉センター	１月21日 (13時から16時まで)
そお生きいき健康センター	11月19日、２月18日 (13時から16時まで)
大隅弥五郎伝説の里	12月17日 (13時から16時まで)

藤尾法律事務所による無料法律相談

○相談料：無料(相談者からはいただいておりません)
※1回につき相談時間は30分以内
○申込・受付方法：先着順、事前電話予約可
○お問合せ先：
弁護士法人 大隅広域ディフェンダー
藤尾法律事務所 末吉支所
曽於市末吉町本町1-4-5　TEL：0986-51-9830

○相談日時及び会場：

会場	相談日時
財部保健福祉センター	12月８日、１月12日、２月９日 (13時から15時まで)
大隅弥五郎伝説の里	11月17日、12月15日、１月19日、２月16日 (18時から20時まで)

たくさんの善意に感謝いたします。

曽於市社会福祉協議会では、この善意を市民の皆様の福祉向上のために大切に使わせていただきます。
なお、本紙への掲載につきましては、ご本人の承諾を得てご希望どおりに掲載しております。

香典返し寄付金（敬称略）（令和 2 年 8 月 1 日～10 月 31 日）

財部地区

切通博之　畠中
末永シヅ子　西村
中崎スミ子　七村
園田輝久　湯田
坂元シゲ子　田平
松元冨士男　桜馬場
桐原一郎　桐原
本村ヨリ子　泊ヶ山
永田曜子　上正ヶ峯

末吉地区

鹿島昭一　向江西
冨吉博人　小中野
信時ユキ子　森田
原田順子　六町前
有馬郁子
長峯貞弘　六町西
白澤ナリ子　東高松
中田一男　新高尾
持留征男　国原西
砂田カツ子　菅渡
稲留一夫　和田
濵田一好　椿
東裕子　猪之川内
大津悦郎　三枝前
大薗武彦　川内後
池之上淳一　菅渡
匿名 1 件

大隅地区

川邉浩二　愛知県
村下恵子　大沢津
吉峯キヨ子　別府
小濵タミ子　狩谷
久木田久子　坂元
小濵アイ子　榎木段
新原義昭　荒谷
前田三郎　東笠木
吉國勝義　二重堀
佐々木正和　持留
樋脇スズ子　段坂元
匿名 1 件

一般寄付金品（敬称略）（令和 2 年 8 月 1 日～10 月 31 日）

財部地区

匿名 1 件

末吉地区

青木　勇人	新高尾	10,000円
竹内　昭	掛上	3,000円
匿名		150,000円
匿名 1 件		

大隅地区

匿名 1 件

鹿児島県茶商業協同組合
社協へティーバッグのお茶(100個入り520袋)を寄贈

ご寄付いただいたお茶は、ふれあい・いきいきサロンなどへ配布させていただきました。本当にありがとうございました。

◀サロン・体操教室・ミニデイ合同連絡会で配布いたしました。
ふれあい・いきいきサロン 笑福会　代表 宮田 月美 氏(左)
曽於市社会福祉協議会 末吉支所長　坂元　直美(右)

職員より

朝夕涼しくなり秋の気配を感じるこの頃、秋と言えば食欲の秋、芸術の秋、読書の秋、スポーツの秋、行楽の秋…。コロナ禍「新しい生活様式」で季節を満喫し気持ちをリフレッシュしたいものです。しかし、地域では、風評被害や誹謗中傷を心配され、帰省を控えておられるご家族や地域活動の中止により寂しさや不安を感じながら生活されている方も少なくありません。地域福祉に携わらせていただく者として微力ではありますが地域で暮らす方々の気持ちに寄り添いながら努めていきたいと思います。気温の変化に注意し、衣服で調節しながら、体調管理に気を付けて健康に過ごしましょう。

M・U